

アドバンス・ケア・プランニングの実装に関する研究 —「自分らしく生きる」の実現を支える—

看護学科 基礎看護学領域 中村 円 講師



Q. どのような研究をされていますか？

A. どのような年齢や健康状態の人であっても、「自分らしく生きる」ことを実現するための研究に取り組んでいます。アドバンス・ケア・プランニング（以下、ACP）という概念を中心に、自分の価値観や人生の目標、望むことなどについて意思を表明したり、決定したりするための支援に関する研究をしています。日本人は、その文化的背景から、自分の意思や意向について家族を含む周囲の人に伝えることが苦手な傾向にあるといわれています。特に、病気を患ったり、高齢になることで周囲の人に迷惑をかけたくないという気持ちから、遠慮をしたり、家族の意向が優先されるといった課題があることがわかっています。

こういった課題をふまえて、わが国で ACP を推進し、誰しもが「自分らしく生きる」を実現するためには、どのようなことが必要なのかについて研究をしています。



Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 急性期病院の看護師を対象とした退院に伴う意思決定支援に関する研究、慢性疾患を有する在宅療養高齢者の生活における意思決定プロセスの研究など、疾患や治療に関する選択だけではない、生活と関連した意思決定やその支援がどのように行われているのかを明らかにする研究を行ってきました。また、ACP の実装に向けては、健康なときからの ACP を推進するための取り組みとして、自分の大切にしていることについて対話を促進するカードゲームに関する研究や、専門職が質の高い意思表明や意思決定支援を行うための教育に関する研究を行っています。



Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. アドバンス・ケア・プランニングの社会実装を目指すにあたっては主に 2 つの取り組みが必要と考えます。まずは、専門職だけでなく、すべての人が ACP を正しく理解し、取り組んでいくための仕組みづくりが必要だと考えています。そのためには、市民を対象とした啓発活動や講習会などを通して、正しい理解を促し、ACP に関連した対話が習慣化されるような活動を継続していくことが大切だと思っています。

2つ目には、ACP を支援する専門職の育成が重要だと考えています。対象となる人々の意思表明を促すためには、専門職が ACP を正しく理解し、話し合いを継続してファシリテートしていくことが必要です。また、表明された意思を尊重し、意思実現を支援していくためには、さまざまな実践能力が必要となります。質の高い意思表明・意思決定・意思実現の支援を実践できる専門職を増やすことで、誰しもが「自分らしく生きる」を実現できる社会に貢献していきたいです。

もう少し知りたい！と思った方はこちらへ

- ・基礎看護学領域 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns_kiso-kango.html

- ・大学院保健医療学研究科看護学専攻基礎看護科学 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ns/ahfmc00000013p2.html